夕刊
磐城新報
十月二十三日發行
(日曜祭日翌日休刊)
東京振替一〇六・五八五五番

天氣豫報　小名濱測候所觀測
今晩は北東の風曇 小雨
明日は北東の風曇

新潟のこと(上)

岡崎光一

此方へ來てから、もう一年以上になる。あの人にはあゝ、この人には斯うと自分勝手な、いろ〳〵の理由をつけて、御無沙汰續きで居る中に、イワキのことが段々薄れて來てしまつた樣な氣がする。

と、斯う書いてゐるのは九月十八日の夜だけど、土の中から這ひ寄つて來る樣な秋の冷氣が身に泌みる。つひ十日程前迄は、九十度を降つたことのない暑さだつたのが、突然に、餘りにも突然に、秋になつてしまつた。しかもこの秋たるや、天は低いし、風はいざ知らず、彼方にも此方にも病人續出の惡陽氣。陰鬱な冬の前提である。

赤蜻蛉が、ツイ〳〵と夕燒の空を飛ぶ、其方の爽快な秋を想へば、其の餘りの相違に驚く。娛しむべく、春と秋のない。そして、冬には太陽のないところ――ニイガタ

夏はまた、夜も晝も一向に變りのない、猛烈な暑さ。あゝ暑い、あゝ暑い。と唸つた揚句、漸く寢ついたかと思へば、グッショリ汗をかいて眼がさめる。ちつとしてても、自分の手足を見つめて居ると、フーッと汗の滲み出て來るのが見えも。それが、太平洋岸の樣な男性的な暑さでなく、うでられる樣な蒸し暑さだから不快でならない。日本海特有の濕氣のせいだ。

冬は唄に名高い猛吹雪。雪といふよりは、むしろ風に近い。

其方の風の樣に、吹きつけるんでなしに、吹き捲くんだ。傘など、さし樣もむけ樣もあらばこそ。そのヒユウ〳〵捲き上げる風に、雪が混つて、目と言はず鼻といはず、處きらはず飛び込んで來られると、足の進まぬ凍結した血液の中で、そゞろに阿伽井嶽の山肌を思ひ浮かべて、其方の空つ風が戀しくなる。

この樣な、大陸的な氣候であれば、此處に棲む人間は自づと、それに似るべきものを、これはまた何と、新潟男の腑甲斐なさには呆れる。押してグンニャリ、引いてベッタリ、覇氣や若さは少しもない。杉と男は新ガタでは育たぬといふ。由來僻字的に、女の方が多いせいか。

あるひは、新潟名物柳と橋と女とあれば是非もないか。新潟女の好さを、美さに求めるならば、先づ藝妓に指をさす可きだらう。

一寸文字では表現出來ぬ特異な、エロテイックなアクセット。肌理の白い細かさ。澄み切つた瞳。等々の魅力は、此處へ來る學生が大分この方面で失敗するといふ實質が、多くを物語つて居る。

國鐵は大陸へ

平華生

○國鐵は大陸にまで大行進
○大陸の鐵路背負立つ友に泣く
○大陸に國鐵の旗幅がきく
○鐵道は樂土を作る立役者
○スクリンに國鐵の旗友の顏
○神技かな國鐵軍の作業振り
○大陸に國鐵の華パッと咲き
○大陸の鐵路賴むぞ合點だ
○これ父さんよと云ふ子も坊や首を振り
○父ちやんは部隊長だと寫眞見て

仲秋放談(二)

島田忠夫

聞く所によれば、土牛畫伯は自分や子供さんやの病氣で描けず、おくれて出品したのださうな。

□

院展はどうも不振であるが二科展の方は、今年は活氣があつた。中には日支事變に從軍した畫家も居つたので、自然、時代の空氣が濃厚に出てゐると言へよう。向井潤吉、栗原信氏等の作品がそれだ。

二科展で、最も問題になるのは第五室である。藤田嗣治の『島の訣別』向井潤吉の『突撃』栗原信の『小休止』『十五分』田村孝之介の『看護婦』等。これら戰爭畫と目するものを一室に陳列してゐるのであるが、向井潤吉、栗原信の兩氏の外は、いはゆる戰爭の氣分に甘ゐてゐるやうに思へるのは、どうしたものか。

□

陸軍側の某氏の言によると、從軍畫家として、散々軍部の世話になり、手當を貰ひ、保護を受けてゐながら、內地へ歸つて來ると『戰爭は繪にならない』などと言ふ畫家が多いといふ。實に呆れたものだ。自分の腕が足りないので、戰爭畫が描けないと、何故正直に言はぬのか。之れは、軍當局の憤慨を私も尤もだと思ふ。

□

兎に角、二科展には見應へのする戰爭畫があつた。少數ではあるが、やはり尊いと思ふ。これが、日本畫になるとどうもうまくゆかぬらしい。

〳〵◇〳〵

10月23日

△始めて巡査を置く(明治四)△ポルトガル政府スペイン政府と外交斷絕を聲明(昭和一一)

○

人間は、自分に出來ないことは責任を感ずる必要はない

武者小路實篤

憶乃木將軍

珠璽　小野務平

維新維忠國棟梁
將軍留得典型在
時艱偶憶當年事
一去忽々三十年

講談 隱密小天狗(おんみつこてんぐ)

(155)　中川雨之氏作　近藤謙氏畫

百萬の味方

皆と一緒に大和屋を出ていつたん歸ると見せかけて途中からこつそり引返して來たけい之助は、待ち兼ねてゐたお歌とゝもに、いまおほりばたの夜更に近い靜けさの中を語りながら歩いて居る。

『身を落すに事を欠いて。かりそめにも武士の娘が。賤しい茶屋奉公とはいつたい、どうした譯だらう』

死んだと思つた駒路に、めぐり會つて、胸は喜びにはづむけい之助だが、何よりも先づ、それを訊かねばならなかつた。

しかし、駒路としては、愛で、うつかりたことは言つてしまへない。

と、いふのは、けい之助の連れが惡かつた。

佐原十兵衞といひ大竹八藏といひ、皆正雪屋敷出入の浪人、その儕と友逐づきあひをしてゐるけい之助、たとへ戀人だとて、秘を許すわけには行かない。

戀人を疑ふのは、哀しいことである。しかし、隱密といふ大義の前には、暫らくその哀しみをも忍ばねばならなかつた。

『あなたにも棄てられてしまひ、兄さんは放蕩は少しも直らないし、此世に何の望みもないわたし、死んだ思ひで、こんな賤しい稼業を』

と、あとは、淚に澁む聲

『それは嘘だ』

と、肚の底まで照らし拔くやうにけい之助は鋭く云つて。

『何の望みもない世の中におめおめと生存へ居るやうな、そんな駒路殿ではない筈だ、茶屋女にまで身をやつしたのは、おほかた俊作殿の、行方を尋ねて居るのだらう』

×　×　×

松平伊豆守を除いたら、誰にも言ふ人はない、と固く誓つた秘密であるけれど、その駒路の鐵石心も、戀しい圭之助に出逢つては、さすがに耐へ切れなくなり愛に初めて、俊作が、伊豆守の內命を受け、由比正雪一味の秘密を探るため活躍してゐたこと。並びに、打つて變つての彼の放蕩三昧は、すべて隱密としての苦肉策であつたことを打明けてしまつた。

それを聞いて圭之助は、どんなに驚いたことであろう。俊作に對して、自分のいまゝで採つて來た途は、すべて淺慮と輕はずみであつたことを考へると、彼の全身はビッショリと、冷たい汗で濡らされた。

そして、この際、俊作の行方を捜し出すことが、俊作に對する謝罪ともなるし、また、それが自分の爲すべき、當然の義務でもあるかのやうに信じられた。

『怪しいのは正雪の屋敷だ正雪の爲に看破れて、或ひは何處かに拘禁されて居るのかも知れない。幸ひ拙者には傳手がある。正雪屋敷を探つた上、若し拘禁されてでも居るやうなら、命を賭けて救ひ出さう』

委細の話を聞き畢つた後圭之助は眉を昂げてさう言つた。

駒路に取つては、百萬の味方を得たよりも、嬉しい心强い言葉であつた。

しかし、口へ出してこそ言はないが、二人の心に暗い影の投げられてゐる、のは『俊作は、若しや殺されてしまつたのではないか』といふ心配であつた。

『何分の吉左右を知らせるまで、兎に角、大和の女中お歌に成つて居るが宜い』

と言ひ置いて、その夜は圭之助、駒路と別れて、千駄木坂の浪宅に歸つたのである。

そして、その浪宅の一夜どんな秘策が、果して彼の胸中に練られたるのか?

優等賞入選
銘酒 福美
醸造元 內郷村 合名會社 四家酒造店

優等賞入選
銘酒 福鶴
醸造元 高久村 本馬左源次

耳鼻咽喉科 專門
平市南町一六番地
大和田醫院
電一七〇番
(入院隨意 病室完備)

ラヂオの故障は―放送局指定相談所へ
御買求めは……
測定裝置 技術完備の弊店へ
日本放送協會指定
ラヂオ相談所
HK型受信機配給所
富永ラヂオ店
平驛前 電話四九六番

旅舘 大幸舘
電話下谷(83)六七七番
東京上野驛前 下谷郵便局横通角
私は平市出身ですから特に郷里の皆樣方の爲めに御便宜を圖ります
主人 比佐棟雄

一升貯蓄報國
酒は白菊
景品附特賣
特選 大吟醸 一升 金貳圓
古風床しき置物にもなります
一升お買上毎に新案わらずに出る武久貯金器壹個差上ます。早い者勝ち
▼毎月廿日公休日△
廣瀬支店
電話五十四番

夜間診療
胃腸性病
內科 胃腸病科 花柳病科 性病科 皮膚科
專門
松村胃腸性病科醫院
(平市南町電一〇七番)
(見習看護婦募集)

産科婦人科
根本醫院
平市南町五二
根本莊次郎
根本貞雄
電話三四番
(病室完備 入院隨時)

お醤油は……ヤマフル
味噌 醤油
たひら正宗
鰹節 食料品
醸造元 山崎合名會社
福島縣平市
電話(營業部一〇番 本店二七〇番)
明治生命磐城代理店 山崎與三郎

斷然―賣行よし
信用と品質と共に備つて
低温殺菌
岡田牛乳
平市鎌田町
電話五一

中古各種レール鐵管
礦山用機械器具類
製鐵原料問屋
二大製鐵會社特約店
海軍工廠御用達
銅鐵機械 KS 井尻七三郎商店
福島縣平市鍛冶町十一
電話五二二番
荷受場 平市鍛冶町廿三番地
倉庫 平市鍛冶町九番地
御買上品精々御安く納品至ます
御拂下品は精々御高値に買受ます
十二封度レール、トロ車輪付屬附鐵工具品、新品着荷致しました

優等賞入選
銘酒 小錦
醸造元 高久村 合資會社 鈴喜酒造店

內臟外科 一般外科 花柳病科 (入院隨意)
平市六丁目(橋際)
木村外科醫院
電話三〇九

英靈地下に微笑まん 第六回論功行賞發表

武勳薫る郷土の諸勇士

今次事變に散華した護國の忠魂に對する第六回論功行賞は二十一日發表されたがこのうち恩賞に輝く地方出身兵は左の如く、さぞや地下の英靈も莞爾たるものあらん

平市出身

△功五旭六歩中尉金成龜太郎(市內研町)△功七旭八歩伍長平谷壽長(市內四丁目)△同歩上等小泉勝巳(市內[illegible]平窪)△同工上等清野卯吉(市內田町)

石城出身

△功五旭六歩中尉小野好安(好間)△同工中尉安孫子幸一(同村)△功七旭八輜上等芳賀巍一(貝泊)△同鈴木久義(神谷)△同歩上等鈴木一生(小川)△功五旭六歩大尉志賀繁(泉)△同松崎精一(錦)△功六旭六歩軍曹川上利平(內郷)△同佐川泰雄(入遠野)△同旭七歩軍曹箱崎鐵三郎(小川)△同齋藤新一(荷路夫)△功七同歩伍長國井四郎(鹿島)△同幾田明(勿來)△同大竹正三(泉)△同矢內榮治(三阪)△同旭八歩上等車田由治(泉)△同歩伍長早川泰造(大浦)△同旭八同赤津宇衛門(錦)△同歩上草野重隆(上小川)△同蛭田實(田人)△同箱地藤吉(川前)△同新妻榮吉(泉)△功六旭七歩軍曹長瀬憲彦(植田)△功七旭七歩上等佐藤繁(赤井)△同旭八薬谷佐市(永戸)△同松本增義(草野)△同北郷久治郎(內郷)△同蛭田竹松(川部)△同佐藤乘吉(川前)△同川添勝明(貝泊)△同歩伍長引地晉治郎(鹿島)△同上等山崎歲次郎(四倉)△同熊田清磨(內郷)△同佐藤松吉(四倉)△同大久保子之松(鹿島)△同小山今朝治(湯本)△同猪狩乘吉(植田)△同歩伍長鈴木喜久男(神谷)△同上等芳賀儀平(大浦)△同武內喜(大野)△同根本孟雄(夏井)△同江尻英次(磐崎)△同草野昇(下小川)△同出羽公一(四倉)△同廣瀬泰造(赤井)△同山野邊龜壽(赤井)△同首藤貫造(泉)△同木村林藏(湯本)△同星岡一(湯本)△同旭七歩伍長泉田清光(大野)△同上等大平光毅(赤井)△同旭八菅野將一(內郷)△同伍長西郡勘(神谷)△同上等上遠野一(上遠野)△同鈴木信守(植田)△同野村一次(江名)△同旭七渡邊德一(小川)△同旭八吉田幸一(植田)△同坂本三郎(草野)△同近藤篤志(玉川)△同田村三男(泉)△同吉田秀男(赤井)△同伍長阿部友一(箕輪)△同佐藤務久(神谷)△同蛭田玉好(貝泊)△同高松多七(湯本)△同塙順次(勿來)△同高萩平穗(玉川)△同星猪一郎(錦)△同柳井英一郎(玉川)△同平子一(錦)△同橋本市次郎(湯本)△同田子金熊(小名濱)△同蛭田倉之助(山田)△同旭七鈴木渉(赤井)△同旭八高木三平(磐崎)△同星幸男(湯本)△同旭七伍長高木惠三(磐崎)△同旭八三瓶理喜男(澤渡)△同旭七荒川清(鹿島)△同旭八佐川信孝(泉)△同柳內惣吉(上小川)△同大平仲根(山田)△同橋谷田潔(湯本)△同田邊操(泉)同越沼林平(磐崎)△同旭七鈴木鶴雄(荷路夫)△同旭八下山田壽秋(上遠野)△同伍長大竹界明(夏井)△同上等蛭田幸太郎(山田)△同生田目繁次郎(田人)△同星野高夫(下小川)

市出身四勇士の家庭

金成中尉　市內研町に雜貨商を營み、母親よしさん(四八)と妹榮子さん(二四)の二人暮し、中尉は磐中第三十回卒、出征前磐炭に勤務一昨年三月少尉に任官市聯合分會第一分會長、軍事後援會評議員をつとめ昨年十月二十九日上海馬家宅の戰鬪で戰傷死

平谷伍長　市內四丁目マルトモ食堂を經營し昨年十月廿八日上海馬家宅で戰死、双葉郡大堀村出身で夫の戰死後妻ステさん(四〇)が健氣に食堂を經營、養女トミ子さん(二)がある

清野上等兵　本籍市內田町、一家は現在好間村に居住し妻フクさん(三四)長女利惠子さん(四)長男和俊君(二)がある、昨年十月十八日寶山縣三家村の華と散つたもの

小泉上等兵　市內鯨岡字裏門出身、出征前まで磐炭に勤め一家をあげて內郷へ、母テウさん(六八)妻玉子さん(二八)長男潔君(四)二勇忠君(二)と第二人は目下磐炭勤務

移民地感想 中繼放送

明二十三日午後六時二十五分から七時迄新京、齊々哈爾、牡丹江各放送局より滿鐵總裁の挨拶に次ぎ嫩江、勃利兩訓練所長の挨拶、青年移民の感想等が中繼放送される、今や移民熱の高まつてゐる矢先きであり、努めてこれら尊い体驗談を聽かれるやう市當局では市內各區長を通じ周知方を依賴した

職業紹介連絡委員 地方の顔觸れ決る

(泉)佐藤清治　佐藤林吉(田人)大津新一(荷路夫)佐藤源一郎(川前)新川五齊藤寅次(石住)涌井正二郎　猪狩忠光　永山修介(永戸)阿部武雄　草野光明(箕輪)我妻新吉(神谷)井上純　中野二郎(小名濱)西山直三郎　志賀要植松貞雄(大浦)根本喜代一　早川雅偉　阿部崇順平　水野政次郎　大平勤　高木忠治(內郷)堀一郎　與目太平治　佐藤文雄　遠藤廣亥　鈴木重顯　佐川文雄(夏井)小野三德　鈴木清次郎　渡邊佐重(上遠野)高木憲平　後藤義弘　瀬谷俊次(山田)布川秀雄　下山田丑藏　秋山安藏(豊間)大塚吉造　久保木巳之松　鈴木福太郎　(以上)

燒イモの向ふを張る ホット・キャンデー 地方當業者間で計畫

暑熱に喘ぐ街のオアシスとして而も單價一錢と云ふ大衆普及版で賣り出した凉味一掬のアイス・キャンデー、蚊帳を撤る標準時と見られてゐる閼伽井嶽藥師のお祭り頃を轉機として再び來年の夏來る迄休業狀態に入るのであるが、現在の處で約二千五百圓の起業費を投じ加之に今後新規の製造が許されぬと云ふこの機械を之の儘寢せ物にして置くことは眞に勿体無いと云ふ處から一部當業者によつて案出されたのが夏以外の年中を通じて應用出來る温かい新調ホット・キャンデーの製造で、これなら既設の機械に對して僅かに製品の冷却を防ぐ魔法壜的保温裝置を施せば良いので、機械の滅價銷却と冬の寢喰ひを避くる爲め、この晩秋からそろ／＼之を始めやうとしてゐるのが平、植田、四倉各署管內を通じて相當あるらしく、而も之亦一本一錢と云ふ安値であるから分量に於ては燒芋のそれに遠く及ばぬは勿論だが温くて甘いホット・キャンデーは燒方でも可なりの賣り行きを見せるものと觀られてゐる

巨人蘇峰翁來平決る 市教育會來月初旬開催

郡部會と分離獨立後に於ける縣教育會平市部會の總會は、今月初旬開催の豫定が蘇峰徳富蘇峰翁の都合で無期延期となつた旨既報の如く、この巨人の謦咳に接するの機を後日に延ばされた地方人士をして少からず失望せしめて居たが同會から更に懇請の結果大体來月五日頃忙中の寸閑を割愛して貰ふ事の諒解が成つたとかで愈よその頃に總會が開かれるものと觀られてゐる

遂沼社長內蒙古へ 廿六日北京歸還

一兩日來北京滯在中であつた遂沼本社長は今二十二日內蒙古に出發、二十六日再び北京に歸る豫定である

平署の取調べ進む 現金盜難事件後報

昨報、市內住吉屋本店に泊つた日本曹達株式會社末廣重役の現金百圓紛取嫌疑者として平署に擧げられた某(二八)は引續き菊池部長刑事が追究してゐるが未だ事件の全貌は判然しないやうである、併し前後數回に亘る同樣の現金泥を自供して居り今後の取調べの進展は注目される

尚末廣重役の被害は當時折鞄に重要書類もあつたものゝ如く傳へられたが現金のみであると

平署巡査增員

定員七十四名(この外諸願十名)を擁し本縣一の大世帶たる平署は既報の如く時局柄欠員等によつて圓滑な公務の運行を期し得ないので過般來增員計畫を樹てゝゐたが取り敢はず本署三名(うち看守一名)と小名濱橫町に巡査駐在所を增置することゝなつた

巡査採用試驗

本縣の巡査採用試驗は既報の如く二十四日午前九時から平署會議室に行はれるが今回は學科成績に餘り重きを置かず人物本位で採用する方針であると、採用は全縣で大体三十五名

互融會事件公判

市內才槌小路石城中小商工互融會理事吉田昌弘(四八)にかゝる業務上橫領事件の公判は三十一日午前九時から平支部で中谷裁判長、富澤檢事立會、門傳、酒井兩辯護士列席で開廷

磐中配屬將校決定

。。。。。。。。。

磐中配屬將校は第二十九聯隊山口武臣少佐と決定、二十二日着任、上海戰線で名譽の戰傷を負ふた威將である

暴風雨被害

昨二十一日地方を襲ふた颱風は幸ひ午後から靜つたので大した被害はない模様であり、平土木監督所管下では小名濱港防砂提が約八十米波浪に洗はれてこの復舊費四千圓、出廻りを控へた蜂谷柿の落果もあるらしいが今二十二日午前中平署に入つた報告は赤井方部の落果約二百二十貫だけであつた

靈山から

廿一日正木直彦先生と同道上野發飯坂温泉へ一泊廿二日北畠顯家公六百年祭靈山寺に參詣佛教美術の研究視察を成し廿三日公會堂拜見に來平の豫定と相成り候、餘は拜眉萬々

赤堀信平

輝く『殊勳甲』 千葉伍長遺族感泣

功六旭八『殊勳甲』の榮譽に輝く双葉郡久の濱町末續出身工兵伍長千葉盛一氏は昨年九月十八日老陸宅の戰鬪に際し十名の決死隊長として突擊、敵のトーチカを爆破、再び突擊に移らんとした際飛び來つた一彈によつて壯烈な最期を遂げた勇士

一家は五年前から湯本町吹矢に移住、氏は出征前まで大工職を營んでゐた、家庭は妻キヨさん(三〇)母トシコさん(六六)子供一男一女、姉妹と弟二人ある、妻キヨさんは『夫は傳家の寶刀備前長船の一刀を携へて壯途につきましたが、戰死後なんでも戰友の方がそれをもつて仇討ち出たとのことです、せめて破格の光榮に浴して地下の夫もさぞ欣んでゐるでせう』と語つた

陣中を聽く (267)

驛頭の歡呼を想ひ 報國の至念を固む

市內立町出身　高橋達男君(信通)

時下秋冷の候と相成り候處彌々御清勝の段奉賀候。陳者今回は御丁寧なる慰問品並に慰問文をお送り下され誠に有難く厚く／＼お禮申上げます。顧れば今丁度熱誠溢るゝ歡呼の聲に送られて祖國を離れ、以來すでに一年有三ケ月の星霜を北支に中支に何の躊躇もなく流れ、其間身心共に障り無く、及ばず乍ら今日迄皇國の爲めに微力を致すを得たることは偏に銃後の皆樣の御後援の然らしむる事と遙かに感謝罷在候。今や皇軍の蔣最後の足場漢口その他要地に至らんとし、全將兵の緊褌一番奮迅を要する時に有之候へば小生も茲新とある嵐の如き歡呼を喚び起しつゝ更に／＼至誠殉國を愈よ堅め十分皆樣方の御期待に副ふ樣奮闘致す覺悟に候へば何卒御安びの程御願ひ申上度く最後に各地大洪水に因る災難を御見舞ひ申上度御禮旁々如斯に御座候、九、二九

本分に邁進

胡摩澤出身　渡邊進君

殘暑のほとぼり遠のきて追々秋氣を覺え參り候折柄益々御多祥慶賀の至りに存に奉り候。陳者本日は御丁重なる御慰問品御惠贈下され誠に有り難く厚く御禮申上候。平素來御家業の御繁忙中をも顧みず小生らの上に種々御配慮御後援を辱ふしつゝも遂々御無沙汰にのみ打過ぎ誠に赤面至極に候が惡しからず御寛恕の程御願ひ申上げ候。小生儀お蔭樣にて相變らず健康に惠まれ元氣にて軍務に從事致し居り候間憚り乍ら御放念下され度候。尙ほ當地にも秋色追々訪れ候て旬餘前のそれに較べ誠に暮らしよく相成り申し候。高天肥馬の好季を迎へ益々身心の鍛錬に勵み本分遂行に遺憾無きを期し以て銃後の皆樣の御芳情の一片にも添ひ奉り度きを覺悟致し居り候間何卒皆々樣にも一層御自愛專一に益々戰時態勢下の護りに御奮闘下されん事をお願ひ申上候

九月十六日

×　×　×

獲ものを前に！ 引金を外せぬ 獵天狗の憂鬱深刻

一兩日來の雨に降りこめられた獵天狗は明日曜の天候はどうかと大に張り切つてゐるが晴雨に拘らず銃士の惱み一つ。それは雉子、山鳥と共に最も書き入れの獲物である兎が、近來流行の野兎病の媒双をなすので折角の獲物に垂涎し乍らも引金を曳くに躊躇すると云つた具合、即ち之れを剝皮其他料理する場合一朝その毒素が創傷口などから体內に侵入すると身体各關部などに化膿性筋炎の樣な症狀を呈し、甚が爲め一命を奪はれると云ふ樣な事も少くないとの事である。但し食べる分には煮沸の爲めに毒素が消されて何でもないとの事で要は調理の際に於ける注意一つだと云はれてゐる

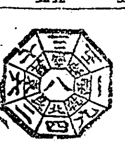
二十三日　(小名濱潮候所發表)
滿潮　前四、二五　後三、五五
干潮　前一〇、二五　後一〇、五五

二十四日
滿潮　前五、二〇　後四、二五
干潮　前一一、〇五　後一一、三五

新十月二十三日　舊九月朔日　日曜　戊子　先負　滿　虚宿

東京市本鄉區湯島四丁目　高島易斷總本部　神誠館　諸判定應需

▲一白　順てうには向へども相談ごとは不てうと知るべし▲二黑　氣を締めて掛れば大に引立られ發展の吉日▲三碧　地盤を固めて進めば永久の基ひを開くべし▲四綠　運氣は至つて壯なる日なれども失敗も多し▲五黃　小敗を以てきよ利を得る日移轉動土等にも吉▲六白　物事行きつまりを生じ易し急げば急ぐほど凶▲七赤　利を得んとするよりも徳を積むが發達の基▲八白　正路をふみじ直して進む時は大吉日となる▲九紫　運氣定まらず吉凶交々至る日內に守るが吉



新十月二十四日　舊九月二日　月曜　己丑　佛滅　平　危宿

▲一白　小事につまづきて大事を敗ることあり守るが勝▲二黑　四圍の無事なるより却つて心の緩みを生ず▲三碧　がん頭にらん鋒する樣な危險の地位にある凶日▲四綠　外の事より內を整へてみだれぬ樣にすべし▲五黃　平穩無事田園に身を養ふこと尤も可なる日▲六白　發逕すべき好時機來る多少の障がいにたわむな▲七赤　新しき勢力が刻々と加はり來る盛運日たり▲八白　逆浪にほんろうさるゝ樣な日確く內を守るべし▲九紫　外にのみ走れば內は手薄となり破れを生ず

新築落成

御得意樣各位に長らく御不自由をおかけ致しましたが愈よ落成致しました。倍舊のごひいきを願ひます。

そば　小料理部近く開始

平市田町銀座通り　酒喜屋　電話一七一番

防寒用具二豐富陳列
純毛製品と純綿製品
戰地の將兵さんへ眞綿入チョツキを〔防彈チヨツキ〕
¥2.60――¥3.70
ツルヤ
平電一四〇

運轉助手見習募集

年齢十七才より二十才迄通勤も可
手當其他委細面談

平市白銀町　不二タクシー　電話三二番